

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和4年度技術情報第11号（バレイシヨの疫病）について（送付）

熊毛地域（西之表市）で発生ほ場率が67%（平年17%）と高く、今後の天候によっては多発が懸念されます。発生ほ場では治療効果のある薬剤を散布して被害防止に努め、未発生ほ場では予防防除に重点をおいた効果的な対策を実施してください。

なお、本情報は病害虫防除所ホームページ（www.jppn.nc.jp/kagoshima）にも掲載しています。



令和4年度技術情報第11号

1 対象病害虫 疫病 (*Phytophthora infestans*)

2 対象作物 バレイシヨ（熊毛地域、奄美地域）

3 発生状況

(1) 熊毛地域（西之表市）では12月14日に調査したところ、発生程度の高いほ場は認めなかったが、発生ほ場率が67%（平年17%）と高かった。

(2) 奄美地域（徳之島町、和泊町）では12月19日～20日に調査したところ、発生ほ場率は8%（8%）と平年並みであった。

4 防除上注意すべき事項

葉での病徴は、下葉に暗緑色の斑点を生じて次第に拡大し、葉裏面の健全部に接して霜のようなカビを生ずる（図2）。収穫期に雨が多いと菌が塊茎（イモ）に侵入し、感染した塊茎は腐敗する。原因菌は降雨で孢子が飛散し、感染は数時間で完了する。好条件下では数日で感染・発病を繰り返す、急激にほ場全体にまん延するので、以下の防除対策に努める。

(1) すでに発生しているほ場では、表1を参考に、BまたはDグループの薬剤を直ちに散布する。雨が連続すると予想される場合には5～7日おきに連続散布し、徹底した防除を行う。

(2) 未発生ほ場では、Aグループの薬剤を発生前に必ず散布し、予防防除に努めることが重要である。その後は2週間間隔で散布する（図3、表1）。

(3) 排水の悪いほ場では多発しやすいので、排水対策を十分に行う。

(4) 収穫残さは次作の伝染源となるため、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。

6 参考データ

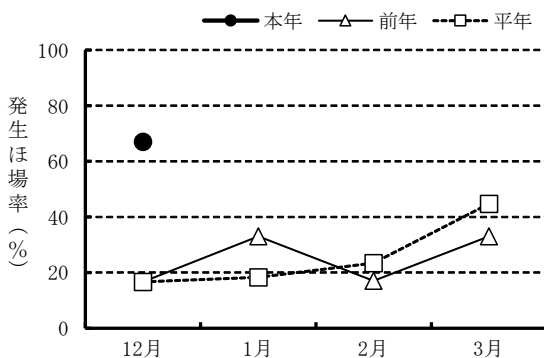


図1 疫病の発生ほ場率の推移（熊毛地域）

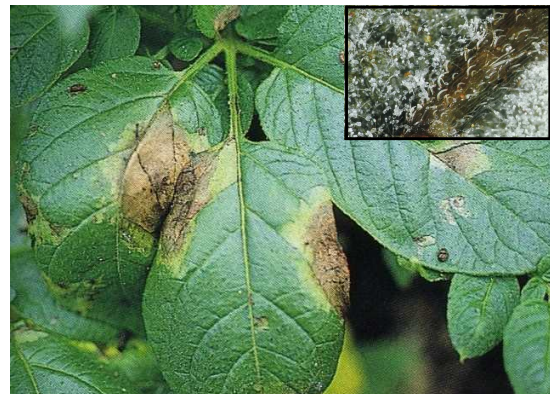


図2 バレイシヨでの疫病の病徴（右上：遊走子のう）

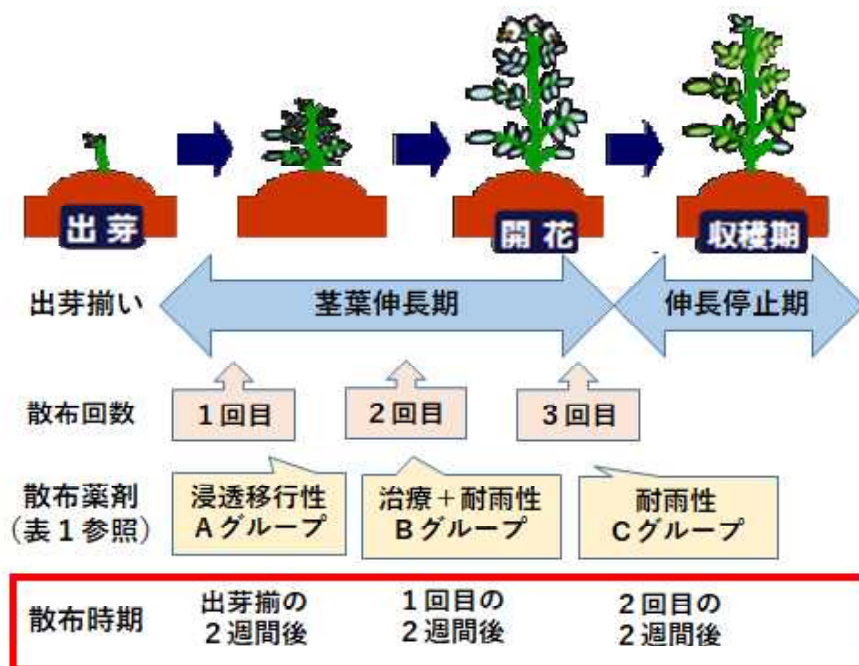


図3 疫病の防除体系（例）

表2 疫病防除体系の薬剤

グループ	特徴	主な薬剤名
Aグループ	茎葉伸長期に散布後伸長した薬剤未付着部位へ成分が浸透移行する薬剤	フォリオゴールド リドミルゴールドMZ ゾーベックエンカンティアSE
Bグループ	疫病発生時に対応可能で14日間の長期残効が期待できる治療的効果と耐雨性が高い薬剤	プロポーズ顆粒水和剤 ホライズンドライフロアブル リライアブルフロアブル ブリザード水和剤 ザンプロDMフロアブル ダイナモ顆粒水和剤 カンパネラ/ベネセット水和剤
Cグループ	茎葉伸長がほぼ停止する時期に仕上げ剤として長期残効が期待できる耐雨性が高い薬剤	ライメイフロアブル ランマンフロアブル レーバスフロアブル フロンサイドSC ダコニール1000 ジマンダイセン水和剤 エトフィンフロアブル
Dグループ	例年よりも降雨が多いなどの天候不順時に上記防除体系で疫病の発生を抑制できない場合にスポット的に使用する治療的効果の高い薬剤	エキナイン顆粒水和剤 ベトファイター顆粒水和剤

令和4年12月21日現在